

(本年度、重点的に取り組む事柄)

○子供が関心を持って学び続ける授業づくり

学校関係者評価	
A	とても適切である
B	概ね適切である
C	あまり適切でない
D	適切でない
E	判定できない

評価項目	具体的評価項目及び指標	学校関係者(学校運営協議会)評価	
		評価	意見・理由
【知的障害のある児童生徒を対象に教育を行う特別支援学校として】 ○確かな社会参加に向かう、自立につながる力の育成	【具体的評価項目】 ○子供たち一人一人の良さを発揮し、主体的に活動に取り組むことができる教育活動の推進 【指標】 ○保護者アンケート当該項目の肯定的評価80%以上	A	学校関係者からは、授業や教育活動の様子について、子供たちが落ち着いて学習に取り組んでいることや、教職員が児童生徒一人一人の実態を丁寧に把握しながら指導していることが評価された。また、地域と連携した活動やカフェ活動などを通して、社会との関わりを経験する機会が設けられていることは、社会参加や自立に向けた学びとして意義があるとの意見があった。
【教育研究を推進する学校として】 ○子供が関心を持って学び続ける授業づくりについての研究実践と発信	【具体的評価項目】 ○好奇心と目的意識を持つ手立て、見通しを持つ手立て、学ぶ喜びを持つてだての三つの手立ての循環による、授業づくりの研究の推進 【指標】 ○研究会等のアンケートの満足度80%以上	A	学校関係者からは、授業の様子について、児童生徒が落ち着いて学習に取り組み、意欲的に活動している姿が見られることから、教職員が実態に応じた授業づくりを工夫していることが評価された。また、研究会において多くの参加者が集まり、学校の実践が広く共有されていることについても、教育研究を推進する学校として意義のある取組であるとの意見があった。 一方で、地域の教員に対する支援や実践の発信については、働き方改革の影響もあり機会が減少しているとの指摘があった。附属学校として、地域の教員が学び合う機会や事例相談などの取組を今後も検討していくことが期待される。
【教員養成を行う学校として】 ①特別支援教育への理解が深まる教育実習の実施 ②放課後活動クラブの実施	【具体的評価項目】 ①演習形式の事前事後指導の実施や具体的実践的な内容についての指導助言 ②特別支援教育専修教員との連携と放課後活動クラブ参加者の増加 【指標】 ①事後アンケートの「特別支援教育への理解が深まった」についての回答が80%以上 ②特別支援教育専修教員との相談会の実施年1回以上と、学生の参加者数の増加	B	学校関係者からは、教育実習について、特別支援教育の実践を体験的に学ぶことができる貴重な機会であり、大学と連携しながら実習を進めていることが評価された。また、実習時期を整理し実施方法を見直していくことについても、学校や受入機関双方の状況を踏まえた対応として理解が示された。 また、放課後活動クラブについては、児童生徒が地域や大学生と関わる機会となり、社会とのつながりを広げる活動として意義があるとの意見があった。今後は、大学との連携を生かしながら活動内容を工夫するとともに、地域資源の活用などを通して、児童生徒の経験の広がりにつながる取組として充実させていくことが期待される。